



今年度の児童アンケート（自己評価）について 7月：3年生以上 11月：全児童実施します。



児童の自己評価について：1学期終了時期と2学期後半に自己評価します。

学校では、子どもたち一人一人が自分自身のことをしっかり振り返ることができるようにしてきます。

小学生が「自己評価」を行うことには、単に成績を振り返る以上の、一生モノの「学びの土台」を作る大きな意義があります。文部科学省の学習指導要領でも重視されている「主体的に学習に取り組む態度」を育てるために、自己評価は欠かせないプロセスです。その主な意義を3つの視点で解説します。

1 「メタ認知能力」の育成

自己評価は、自分自身の考えや行動を客観的に見る「メタ認知（自分を一段上から見る力・俯瞰する力）」を養います。

現状の把握：「何ができていて、何ができていないか」を冷静に分析できるようになります。

改善のサイクル：失敗したときに「なぜダメだったのか」を考え、次の作戦を立てる力が身につきます。

主体性の向上：先生や親に言われたからやるのではなく「自分のためにこうしよう」という自律的な姿勢が育ちます。

2 モチベーションと自己肯定感の向上

正しく自己評価を行うことは、子どもの自信につながります。

成長の可視化：以前の自分と比較して「漢字が多く書けるようになった」といった小さな進歩に気づくことができます。

納得感のある評価：他者からの評価（テストの点数など）だけでなく、自分の努力を自分で認めることで、学習に対する意欲（内発的動機づけ）が高まります。

成功体験の蓄積：「目標を立て達成した」というプロセスを繰り返すことで、「やればできる」という自己効力感が高まります。

3 「学び方」そのものを学ぶ

今の教育で求められているのは、知識の暗記ではなく「どう学ぶか」です。

目標設定力の向上：自分に合った適切なハードルを設定するスキルが磨かれます。

戦略的な学習：「こうやれば理解できる」といった、自分なりの必勝パターンを見つけられるようになります。

効果的な自己評価にするためのポイント単に「できた・できない」で終わらせないために、大人がサポートできるコツをまとめました。